

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 58 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2014 年 3 月 5 日 (水) 13:30~15:45
2. 場所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - (出席委員) 有富部会長, 河西副部会長, 加藤幹事, 江頭, 大久保, 川上, 仙波, 高橋, 中島, 平井, 深澤, 藤田, 柳原, 山本 (14 名)
 - (代理出席委員) 井上和久 (国土交通省/渡田委員), 都築宣嘉 (東京工業大学/木倉委員), 廣瀬恵美子 ((株) 東芝/小畑委員), 吉原恒一 ((一社) 原子力安全推進協会/新堀委員) (4 名)
 - (欠席委員) 内山, 金木, 坂下, 仲神, 西谷 (5 名)
 - (代理出席常時参加者) 松田文夫 (原子力規制庁/澁谷常時参加者) (1 名)
 - (欠席常時参加者) 丸岡 (原子力規制庁) (1 名)
 - (説明者) [臨界安全管理分科会] 板原 (日本原燃), 千葉 (日本原燃)
[輸送容器分科会] 松本 (原燃輸送 (株)), 溝渕 ((株) オー・シー・エル), [LLW 廃棄体等製作・管理分科会] 近江 (日本原子力発電 (株)), 都筑 ((一社) 原子力安全推進協会) (6 名)
 - (オブザーバ) 池田整 ((一社) 原子力安全推進協会), 北島英明 ((一社) 原子力安全推進協会) (2 名)
 - (事務局) 谷井, 室岡 (2 名)
4. 配付資料
 - FTC58-0 第 58 回原子燃料サイクル専門部会議事次第
 - FTC58-1 第 57 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
 - FTC58-2 人事について
 - FTC58-3-1 「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順: 201X (案)」標準委員会書面投票結果報告
 - FTC58-3-2 標準委員会書面投票 反対意見解消協議 議事録
 - FTC58-3-3 喜多尾委員の反対意見への対応 (案)
 - FTC58-3-3 別表 1 新旧比較表 (喜多尾委員の反対意見への対応の詳細)
 - FTC58-3-3 別表 2 分かりにくい文章や表現への対応
 - FTC58-3-3 別表 2 (補足) 新旧比較表 (分かりにくい文章や表現への対応)
 - FTC58-3-3 添付資料 FP 核種の中性子吸収割合の順位 (JAERI 1340)
 - FTC58-4 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準: 201*」附属書 C の記載修正について
 - FTC58-5-1 標準活動検討タスクの用語集案 分科会宛作業依頼
 - FTC58-5-2 原子燃料サイクル専門部会用語担当者

FTC58-5-3	LLW 廃棄体等製作・管理分科会検討結果
FTC58-5-4	LLW 廃棄体等製作・管理分科会 用語集担当者の検討結果表
FTC58-6	原子燃料サイクル専門部会 標準制定スケジュール (案)
FTC58-7	分科会活動報告

参考資料

FTC58-参考 1	原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC58-参考 2	標準委員会の活動状況

5. 議事内容

事務局から開始時、委員 23 名中、代理委員を含む 18 名の出席があり、成立に必要な委員数 (16 名以上) を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC58-1)

事務局から、資料 FTC58-1 に基づいて、前回議事録 (案) の説明があり、承認された。

(2) 人事について (FTC58-2)

FTC58-2 に基づいて、専門部会、分科会の人事について以下の通り紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の退任【報告事項】

河西 基 (電力中央研究所)

②委員の選任【決議事項】

小山 正史 (電力中央研究所)

③委員の再任【承認事項】

加藤 和之 (日本原燃)

中島 健 (京都大学)

内山 軍蔵 (日本原子力研究開発機構)

金木 宏明 (日揮)

審議の結果、小山委員の選任、加藤委員、中島委員、内山委員及び金木委員の再任が承認された。また、部会長から新堀委員に副部会長の指名があった。

2) 分科会

① 委員の退任[報告事項]

□LLW 廃棄体等製作・管理分科会

遠藤 保美 (一般社団法人 原子力安全推進協会)

□臨界安全管理分科会

奥田 泰久 ((独) 原子力安全基盤機構)

須藤 俊幸（(独) 日本原子力研究開発機構）

② 委員の選任[決議事項]

□LLW 廃棄体等製作・管理分科会

都筑 康男（一般社団法人 原子力安全推進協会）

③ 常時参加者の登録

□LLW 廃棄体等製作・管理分科会

前田 二三男（(株) 関電パワーテック）

□臨界安全管理分科会

奥田 泰久（(独) 原子力安全基盤機構）

④ 常時参加者の登録解除[報告事項]

□LLW 廃棄体等製作・管理分科会

花畑 満典（(株) 関電パワーテック）

菊池 恂（内閣府原子力安全委員会事務局）

藤井 康光（電気事業連合会）

都筑 康男（一般社団法人 原子力安全推進協会）

審議の結果、都筑委員の選任及び分科会の常時参加者 2 名の登録が承認された。

(3) 【報告・審議】「再処理施設の臨界安全管理における燃焼度クレジット適用手順：201X（案）」標準委員会書面投票反対意見に対する回答について

(FTC58-3-1, FTC57-3-2, FTC57-3-3, FTC57-3-3 別表 1, FTC57-3-3 別表 2, FTC57-3-3 別表 2(補足), FTC57-3-3 添付資料 1)

事務局から資料 FTC58-3-1 に基づいて、標準委員会書面投票反対票に対する対応案について反対票を投じた委員に説明した結果、反対票が取り下げられたことを報告した。

続いて、臨界安全管理分科会の板原幹事及び千葉常時参加者から資料 FTC57-3-2, FTC57-3-3, FTC57-3-3 別表 1, FTC57-3-3 別表 2, FTC57-3-3 別表 2(補足)及び、FTC57-3-3 添付資料 1 に基づいて、反対意見への対応案について説明があった。主な質疑等は、以下のとおりである。

Q. 別表 1 の対応案 3.13 燃焼度クレジットは 3.12 燃焼度クレジットではないか。

→修正する。

Q. 別表 1 p1 4.2 a) の記載は、旧の記載内容と趣旨が変わっている。文章を見直すこと。

→適切な表現に修文する。

Q. 別表 1 p3 4.2 1 行目 安全側は、他の箇所と同様に保守的にすべきである。

→修文する。

Q. 別表 2 No44 の対応に記載される末尾に附属書に記載される箇所を示す方がベターと考える。

→追記する。

Q. 附属書B までに乾式キャスクへのガドリニアクレジットの適用の記載があるが、乾式キャスクにはガドリニアクレジットを適用しても効果が無く、記載は誤りではないか？

→乾式キャスクの設計を決めるのは、冠水状態の想定である。この場合、ガドリニアクレジット適用の意味はあり、記載に誤りはないと考える。

審議の結果、審議内容を反映した対応案を標準委員会へ上程することが承認された。

(4) 【報告・審議】「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：201*」附属書Cの記載修正について (FTC58-4)

輸送容器分科会の松本幹事及び溝渕常時参加者から資料 FTC58-4 に基づいて、「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：201*」附属書Cの記載修正について説明があった。主な質疑等は、以下のとおりである。

Q. 新図C.5のキャプションには、オリジナル文献の参照番号のような表記があるが問題ないのか？

→この標準内の他の引用図にも同様のものがあり、標準委員会委員より書面投票時に同様のコメントを受けたが、図内の引用番号等はオリジナル参考文献でトレース可能であることからオリジナル文献図に標準独自の修正や変更を行わないという考え方で承認をいただいている。

Q. 解説において“AESJ-SC-F002：2010 からの変更”と記載しているので、F002：2010 が改正処理をして同様の修正を行ったとしても、解説として不整合は発生しないという認識でよいか？

→そのとおり。

審議の結果、修正案を標準委員会へ上程することが承認された。

(5) 【報告】標準活動検討タスクの用語集案 (FTC58-5)

加藤幹事から資料 FTC58-5-1～2 に基づいて、原子燃料サイクル専門部会での用語集の作成に関する進め方の案について、資料 FTC58-5-3～4 に基づいて、LLW 廃棄体等製作・管理分科会の近江幹事及び都筑委員から当該分科会での検討状況について報告があった。

なお、加藤幹事から原子燃料サイクル専門部会用語担当者による第1回検討会を近々開催し、次回専門部会には用語集（案）を報告する予定であることが示された。

審議の結果、提案通りに進めることが承認された。

(6) FTC58-6 原子燃料サイクル専門部会 標準制定スケジュール (FTC58-6)

事務局から資料 FTC58-6 に基づいて、標準制定スケジュールについて報告があった。

(7) 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況 (FTC58-7)

事務局から資料 FTC58-7 に基づいて、各分科会の活動状況について報告があった。

6. その他

- ・ 標準案を含めた配布資料等の学会事務局への提出の締め切りをいつまでにするかについて審議した結果、配布資料等の締め切りは従来通り 2 日前までとなった。
- ・ 次回第 59 回原子燃料サイクル専門部会は、6 月 11 日 (水) 午後に開催することとなった。

以上